

函館市生活支援体制整備事業
第1層生活支援コーディネーター
業務に係る活動報告

令和5年1月27日

第1層生活支援コーディネーター業務 事業計画

地域における住民主体の助け合い活動を促進する仕組みおよび
高齢者の社会参加を促進する仕組みの創出ならびに充実を図る

第二層生活支援
コーディネーター
業務との協働

地域における
ネットワーク
の構築

住民主体の
助け合い活動等
の重要性に
ついての
普及啓発

住民主体の助け合い
活動等の担い手となる
ボランティアの
発掘および養成

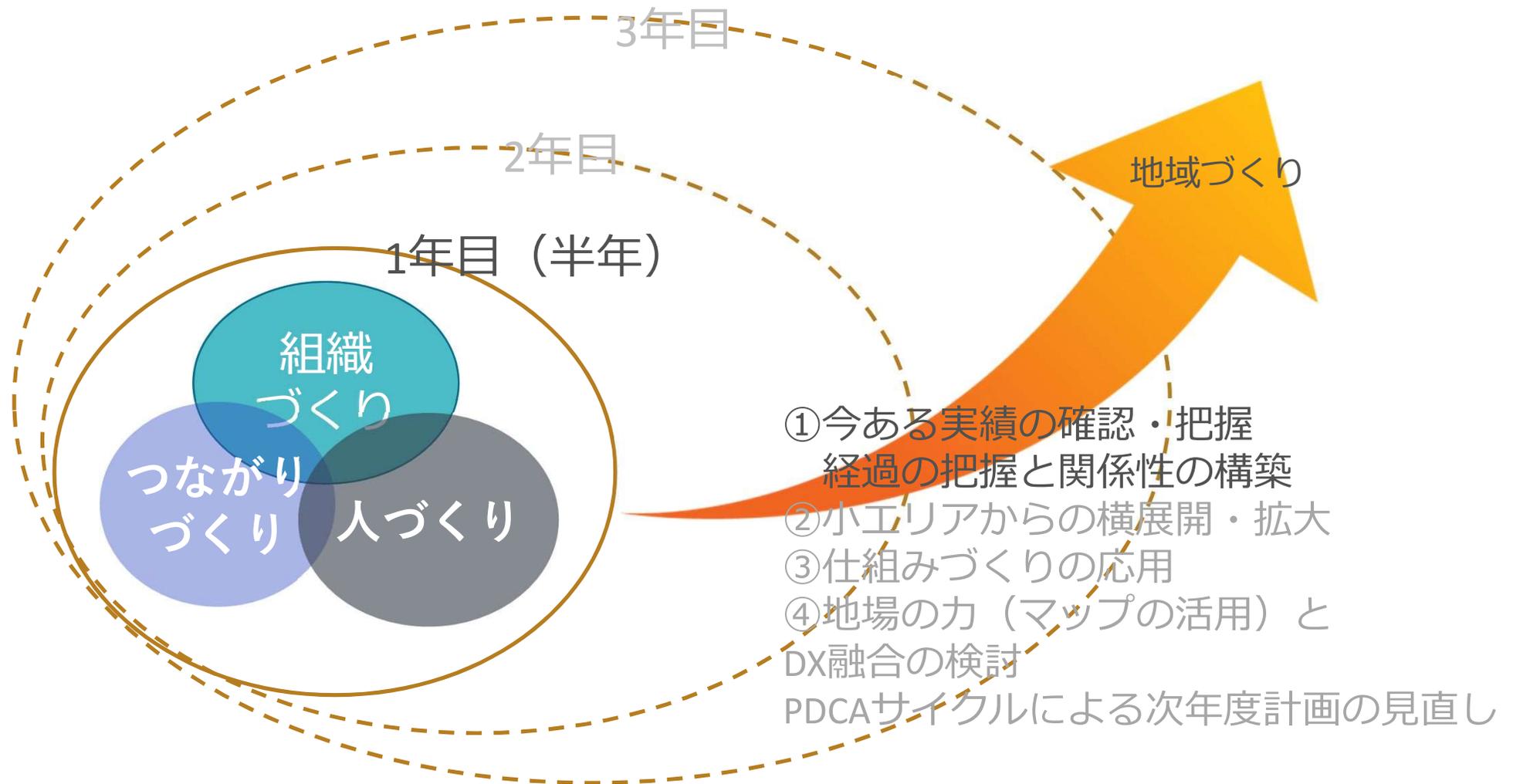
地域における高齢者
支援のニーズと
地域資源の把握
および課題の抽出

住民主体の
助け合い
活動等の仕組みの
創出
および充実

事業計画

第1層生活支援コーディネーター業務（3年計画）

地域共生社会の実現



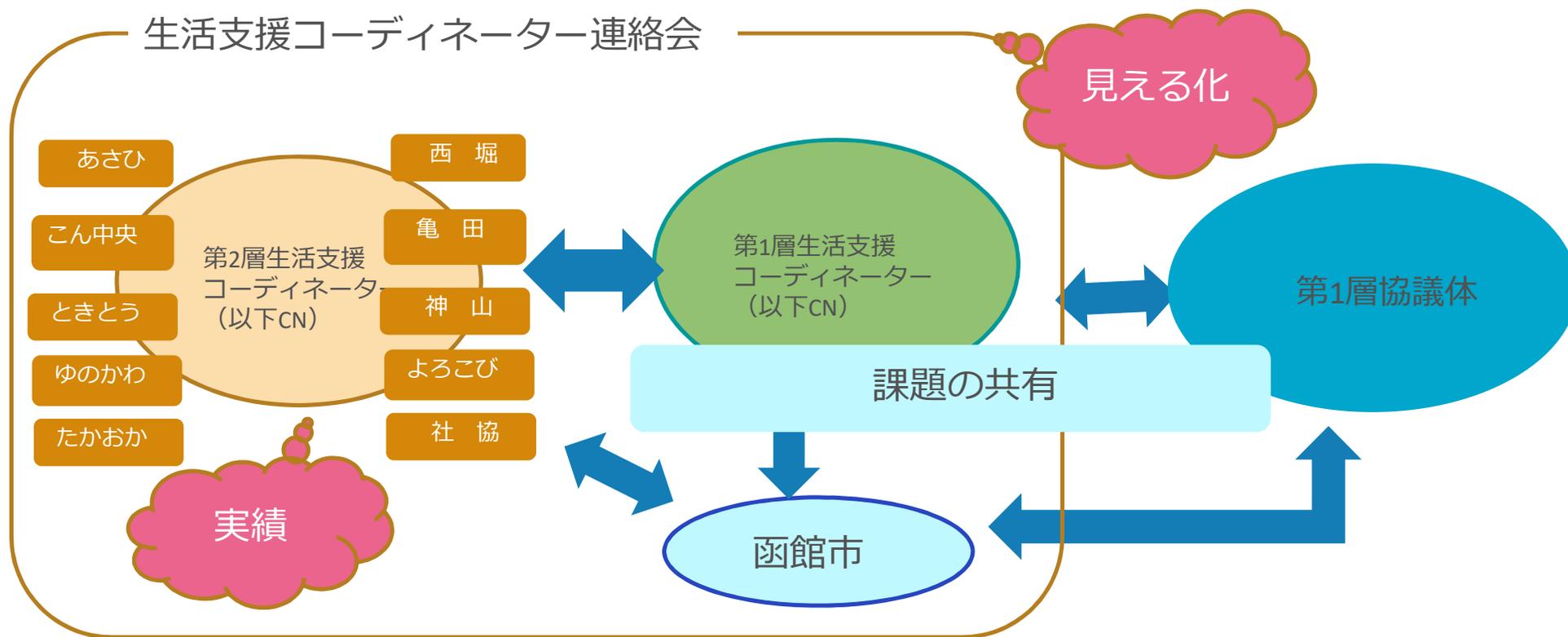
業務項目と活動内容

| | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------------------------------|--|---|---|---|
| 第2層コーディネーター業務との協働 | 連絡会 各包括のヒアリング | かめだ 連絡会 | 連絡会 | 連絡会 |
| 地域における ネットワーク構築 | おじプロ登録者と面談 シルバー人材、ボラン ティア協議体、日吉コ ンテ | 社協、居宅協議会 (シンフォニー、 アニー)、大妻高 校、ナルク | 日吉コンテ(市 も同席)アフ ラック おじプロ登録者 との面談 | 住宅都市部施設 公社 大妻高校 社協、損害保険 ジャパン(株) |
| 住民主体の助け合い 活動等の重要性と普 及啓発 | | 市立看護学校 | | |
| ボランティアの 発掘と養成 | | | | |
| 高齢者支援のニーズ 社会資源の把握 課題の抽出 | | 大妻高校 ナルク函館はまな す 北美原ケア会議 | 赤川ケア会議 | 社協 |
| 助け合い活動の 仕組みの創出と充実 | | | | |

事業計画 1年目（令和4年9月1日～令和5年3月31日）

第2層におけるコーディネーターとの協働

- 実績を把握し、情報共有・連携の見直し、仕組みづくりに反映するあり方を整理
- 日常生活圏域の地域課題について、全市的に俯瞰し分析・整理し対応方法を検討



実績の把握

前月の内容に限定

第2層コーディネーター業務の報告

第1層コーディネーター業務の報告

意見交換

必要に応じヒアリング

第二層コーディネーターの活動

健康教室・元気サロン等の自主活動支援

集いの場

居場所づくり
高齢者自身の役割・交流の場

実績
ほとんどの町会
を網羅している

実績
住民で活動が継続
するよう支援

町会など
個人（高齢者）
の趣味・活動の
場はかなりある



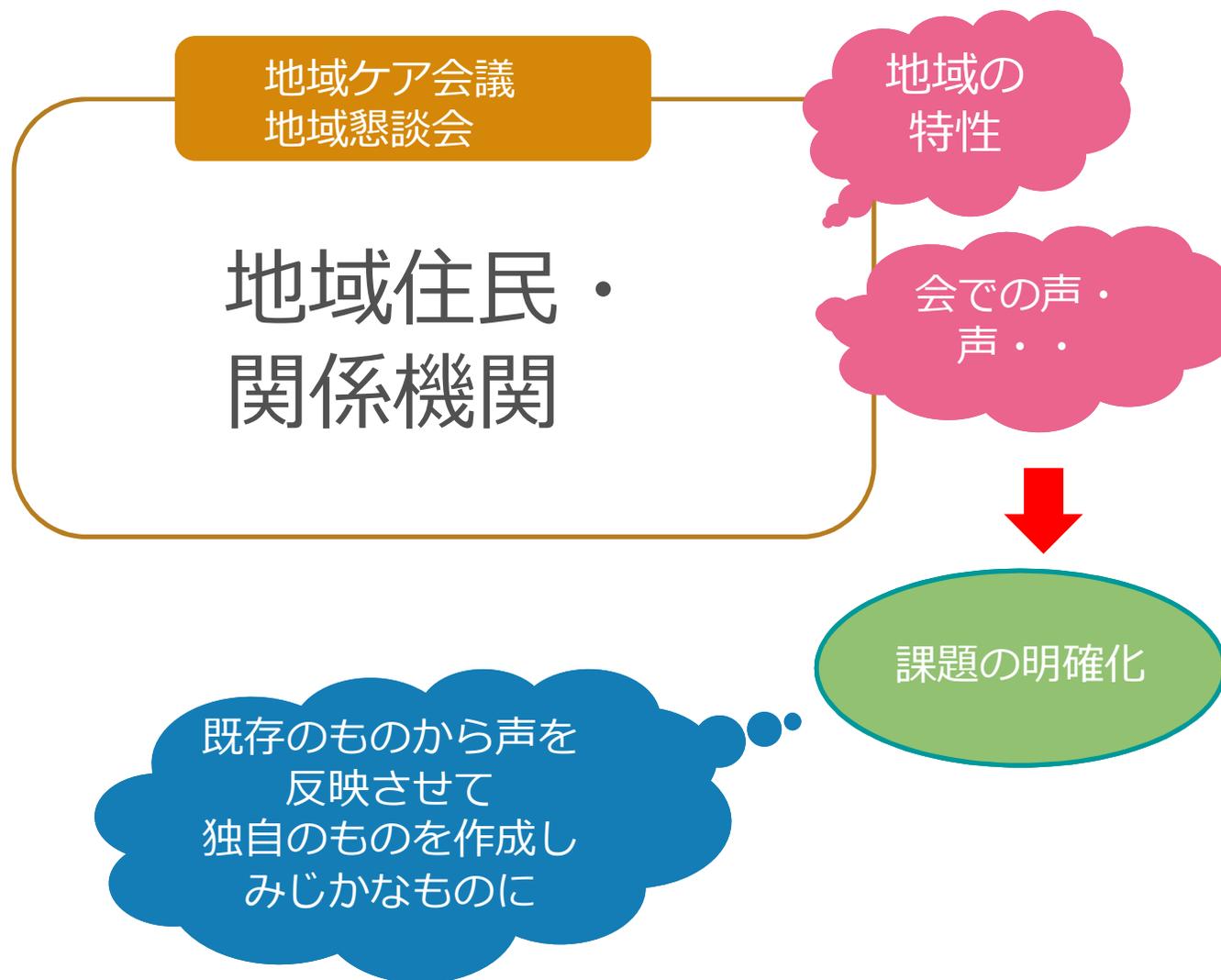
第二層コーディネーターの活動

地域での世代間交流

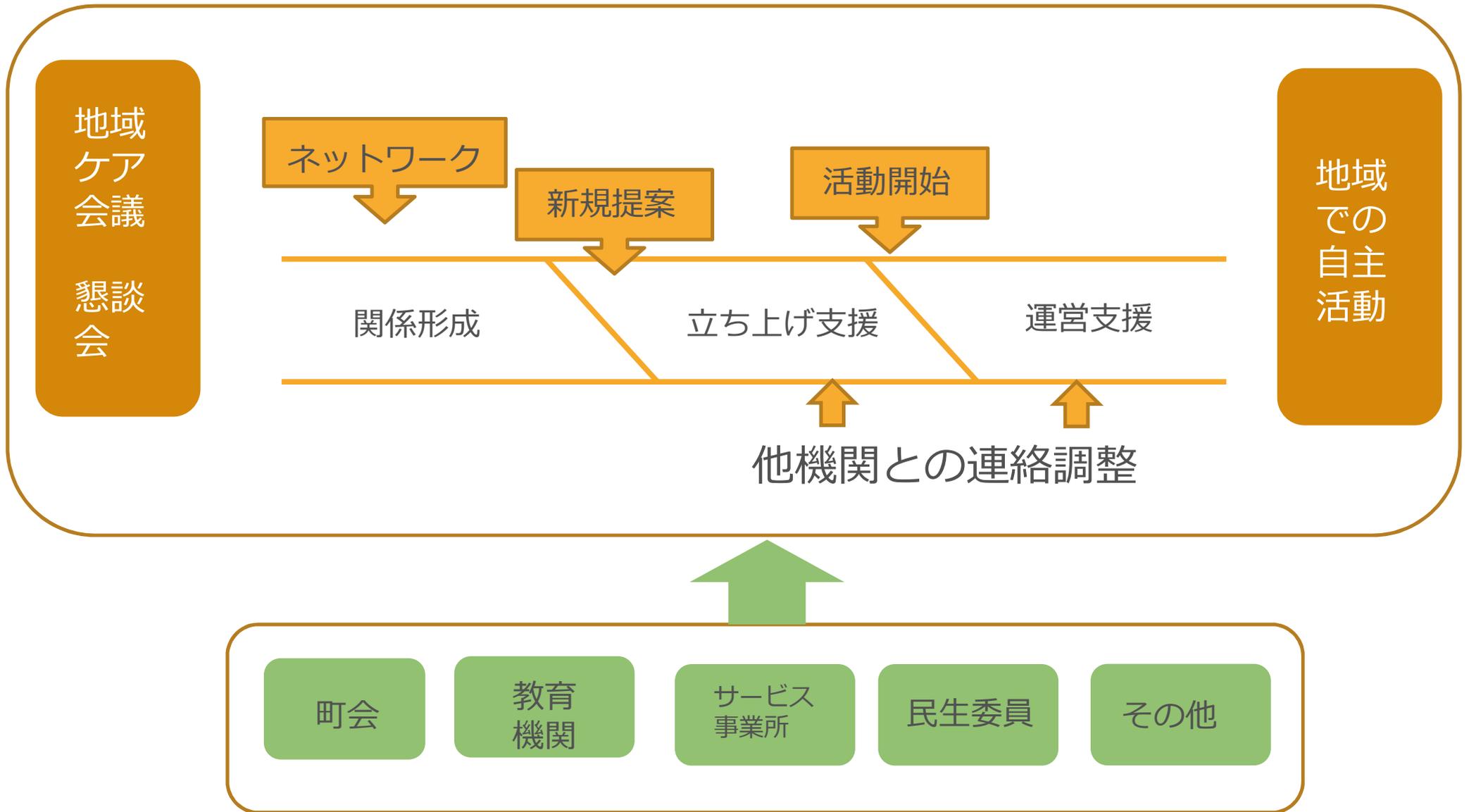
地域の集う場所を見つけ、きっかけ（行事など）をつくり、『集い』を中心に交流を図る。

第二層コーディネーターの活動

地域の特徴をとらえた支援に展開



生活支援等の仕組み



まとめ

- 第二層コーディネーターは地域の特徴をよく捉え実情に応じた、町内会に密着した活動を展開している。
- 多世代を巻き込んだ交流を活発化させている。
- 活動が上手くいった町会をモデルに他の町会を巻き込み横展開している。
- 多世代を巻き込むことで、担い手不足をうまくカバーし、同時に交流を図っている。

おやじ世代の地域活動参加を促進させる取組

1年目（令和4年9月1日～令和5年3月31日）

○おじさんプロジェクト（仮称）へ参加した方にヒアリングを実施する。活動や得意とする領域の精査を図る。

個々とヒアリング

民生委員
福祉委員

他に活動をしていたり別に登録している。新たに動けるとい状況ではない

おやじ世代
の参加者

企業への
アプローチ

企業体としては、
地域との関わり・活動参加は
SDGsの観点からも
推進したいところ

3 すべての人に
健康と福祉を



8 働きがいも
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを



企業イメージ
アップ

住民主体の助け合い活動等の重要性についての普及啓発 (第1層生活支援コーディネーター活動の周知計画)

地域主体の助け合い活動等（住民主体の助け合い活動および高齢者の社会参加）の重要性についての普及啓発。専門学生に対し、住民主体の助け合い活動等の重要性についての普及啓発を行う。

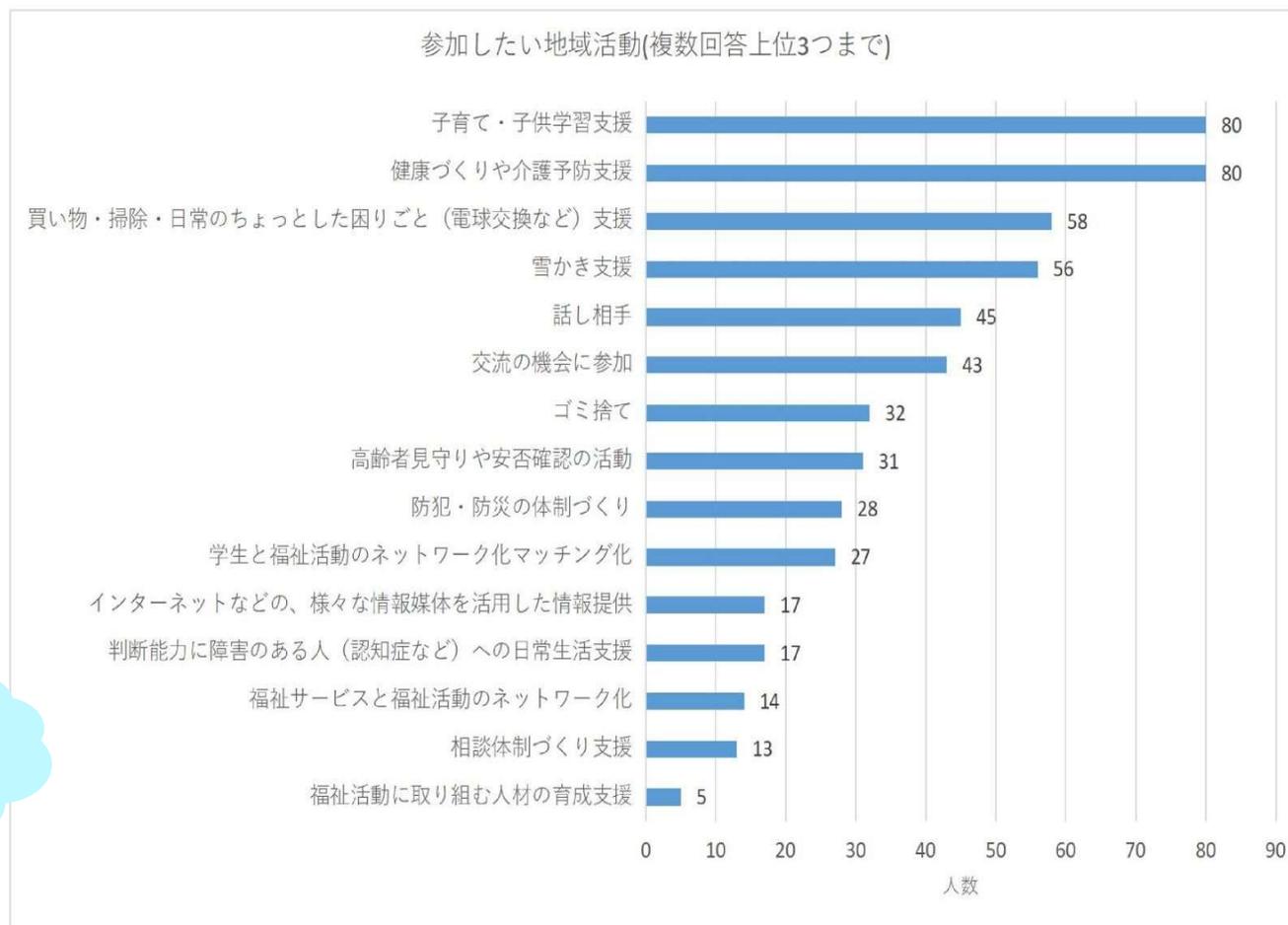
広く市民に、地域活動があることや支え合いが必要であることを知ってもらい、実践する人を増やす

支え合いの
仕組みづくり

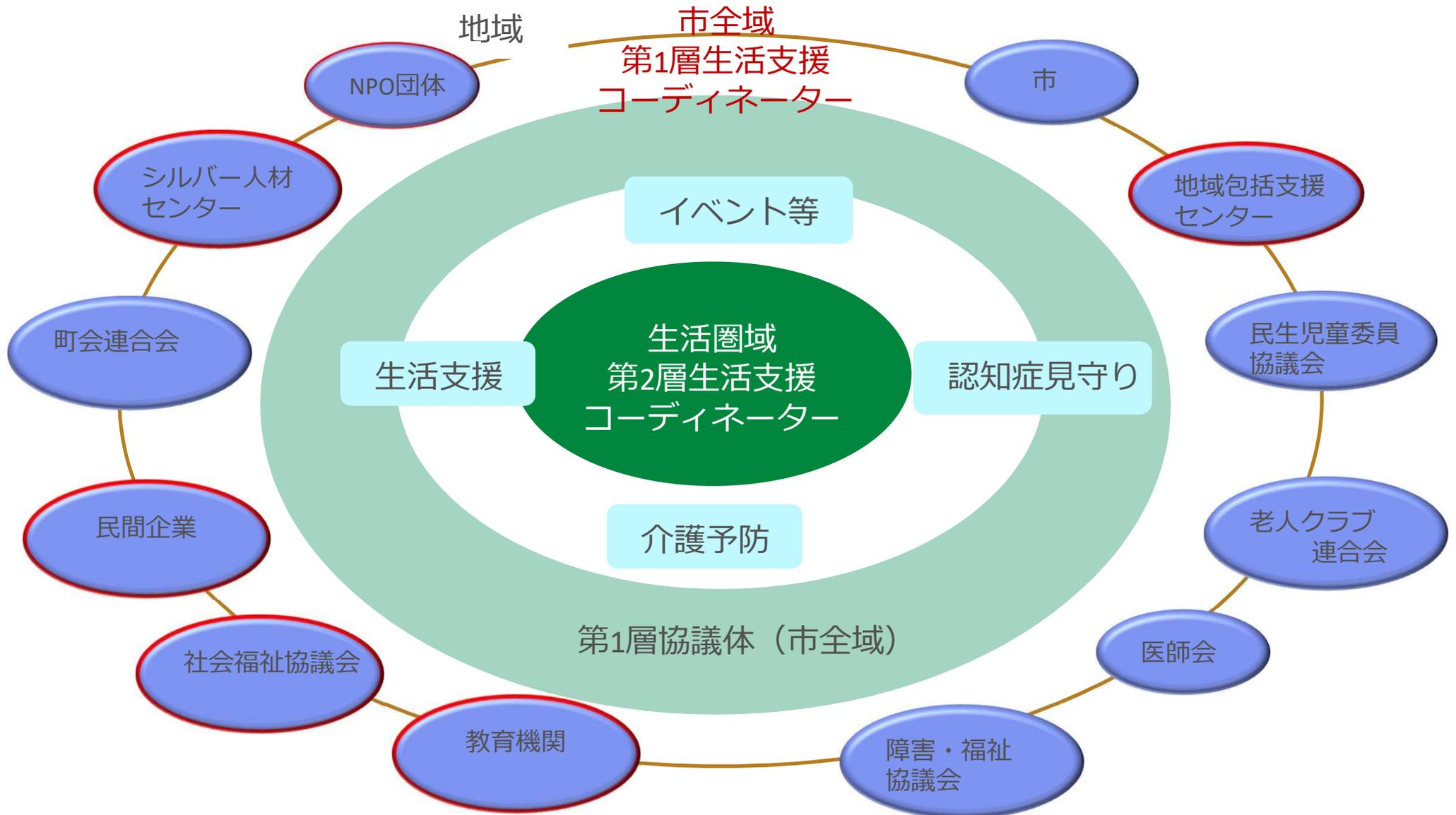
函館市民
専門学生

普及啓発

三二講座
の開催



地域における ネットワークの構築



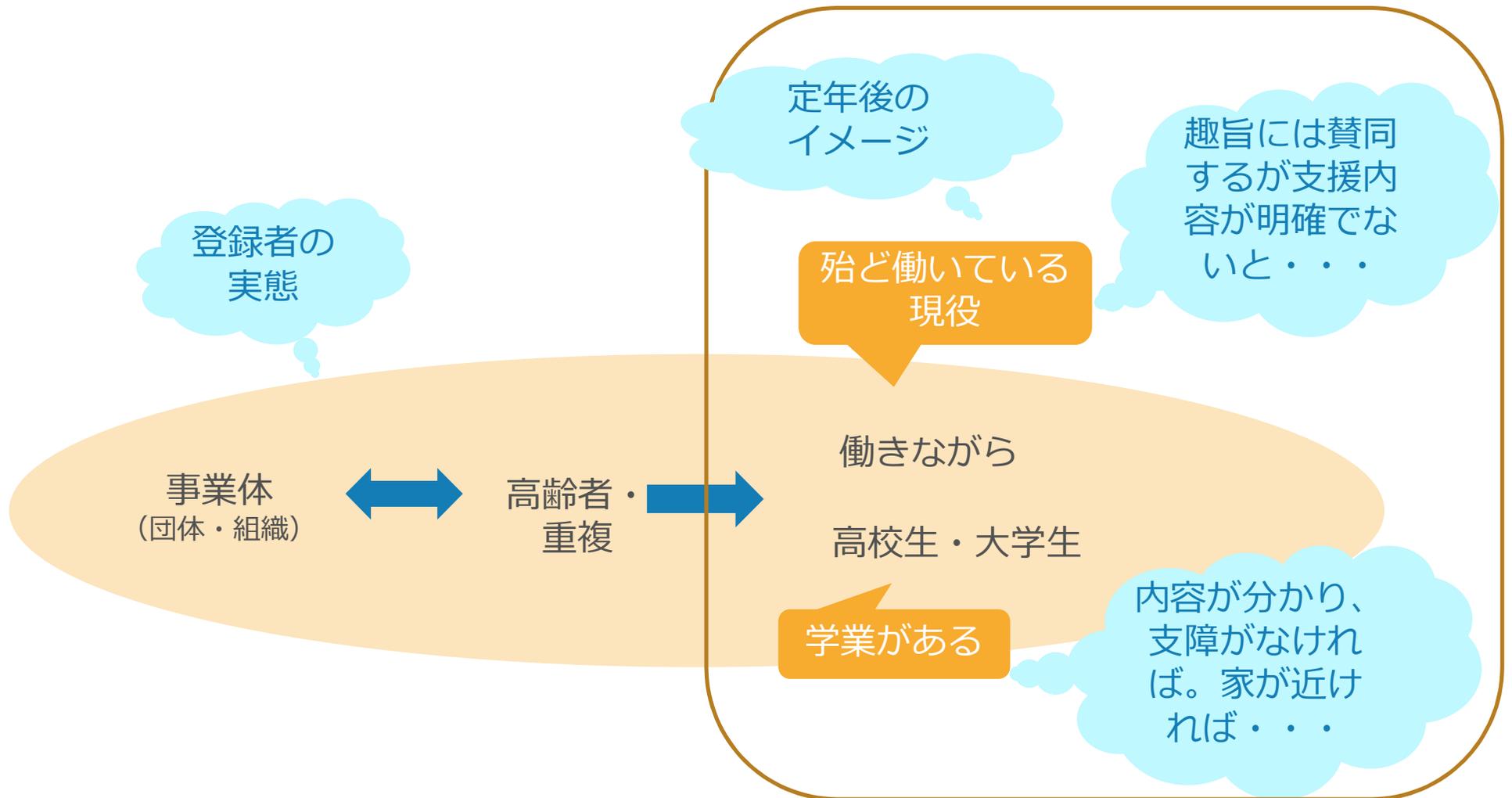
函館市の住民主体の助け合い活動及び高齢者の社会参加の促進する仕組みの現状ヒアリング

| | | | | | | |
|----------------|--|---|---|--|---|--|
| 社会資源 | 第2層生活支援コーディネーター | 函館市社会福祉協議会 | 函館市シルバー人材センター | 函館市ボランティア連絡協議会 | 函館市コンテ日吉多世代交流センター | ナルク函館はまなす |
| 法人格 | 社会福祉法人又は医療法人 | 社会福祉法人 | 公益社団法人 | 社会福祉協議会 | 社会福祉法人創生会 | NPO法人 |
| 目的等 | 地域における住民主体の助け合い活動を促進する仕組みおよび高齢者の社会参加を促進する仕組みの創出ならびに充実を図ること | 函館市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ること | 「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもとに自主的に運営する団体で、臨時的、短期的または軽易な仕事を、家庭、民間事業所、公益団体などから引き受けて、会員へ提供すること | 函館市におけるボランティア相互の連絡、調整及びボランティア活動の増進と福祉のまちづくりに寄与すること | 人と人がつながる地域づくり | 助け合い、奉仕、自立、生き甲斐をモットーに、私のできることを、私のできるときに、私のできる方法で |
| 特徴 | 函館市日常生活圏域（10圏域）毎に1カ所設置 | 民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織 | 会員制 | 登録制 | 函館市のモデル事業 | 全国に拠点を持つボランティア組織。奉仕活動はポイント制で自分も利用できる。（時間預託制度） |
| 活動内容（事業） | 各圏域における通いの場や、生活支援等サービスに関する情報収集、及び地域における支えあいの普及啓発 | 「共に支え合い安心して暮らせる福祉のまちづくり」を基本理念として活動 | 「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき国・道・市の高齢者対策の一環として知事から指定された営利を目的としない公益法人 | ボランティアの発掘、要請及び派遣 | 子供からお年寄りが自由に利用できるスペースを持ち、ボランティアによるイベント開催など多世代の方が集う場所の解放 | 奉仕活動やサークル活動 |
| SC側の共働に当たっての課題 | エリア限定 | 高齢化 | 高齢化、登録数減少 | 高齢化、登録数減少 | 市内全域対象だが、センター周辺地域にとどまる | 主旨に応じた活動 |
| 第1層の課題 | ①若い世代の発掘と活用。②共通した登録者。③サロンや介護予防体操など、集団での集いは行われているため、個々のニーズに応じた供給が必要。 | | | | | |
| 第1層の目標（活動） | ①市内の各企業への広報活動と企業内登録者の発掘。（若年者発掘のため）②企業内説明するにも供給源（住民の訴え）がはっきりしなければ、集まる目的が定まらない。③そのためには、住民からの訴えの根拠となるニーズを調査する必要がある。 | | | | | |

課題1

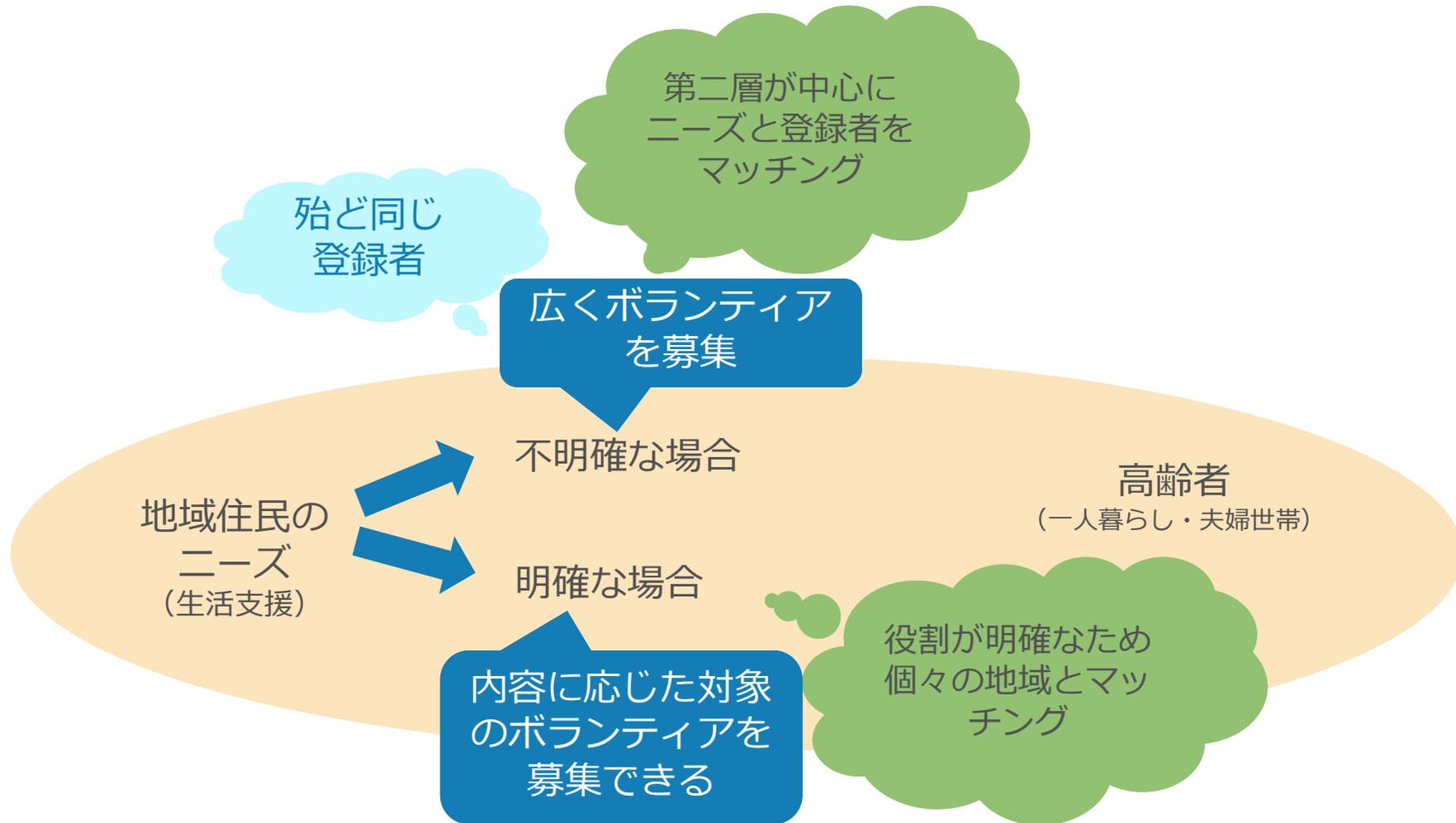
【供給】 住民主体の助け合い活動等を担う

○地域主体の助け合い活動等、後期高齢者の社会参加は、既存の団体の中で活発だが、団体の制約（登録）があり、限定的（主に屋内活動）である。



課題

【需要との関係】 地域住民の生活の困りごと



○生活で何が困っているのかを明確にしていく



意見・助言をいただきたい事

1.現状について

2.供給していただける対象の掘り起こし

3.生活支援体制への取り組み
需要の調査